学校自慢

加茂から世界（グローバル）につながる生徒の未来づくり

市原市小中一貫教育校　加茂学園　市原市立加茂小学校　市原市立加茂中学校
校長　村松（むらまつ）　邦生（くにお）

加茂学園は、房総半島の中央、市原市南部に位置する。学区は、上総丘陵の山岳地帯を養老川が南北に貫通し、「チバニアン」地球磁場逆転期の地層がある豊かな自然に恵まれた地域である。平成25年４月に、高滝・里見・富山・白鳥の４小学校を統合し加茂小学校を創立、加茂中学校と併設し、施設一体型の小中一貫教育校として開校し、今年で開校12年目を迎えている。

本校では、１年生から４年生を前期ブロック、５年生から７年生を中期ブロック、８年生・９年生を後期ブロックとして４・３・２年制を敷いている。前期ブロックは、学級担任によるきめ細かな指導を行い、基本的な生活習慣と基礎的な学力の定着を図る時期、中期ブロックは、身につけたことを活用して論理的思考力・判断力・表現力を育成し、自己有用感を高める時期、そして後期ブロックは、身につけたことを発展させ、自立して社会で生きていく学力と他者と協働する社会性を育成する時期としている。

小中一貫教育校の特色は、異学年交流である。本校では、日常の清掃活動、生徒会活動をはじめとして、ふれあい給食、ふれあい昼休み、体育祭での異学年種目など上級生と、下級生のふれあいの場を大切にしている。

また、今年度より学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして歩みを始めた。春には、小湊鐵道里見駅近くの山桜「与一郎桜」へ全校生徒が散歩し学級やブロックの写真を撮影したり、１、２年生は養老川漁業組合の方々の協力により鮎の放流を行ったりするのが恒例となっている。学校給食センターから講師を招いての食育指導やチバニアンガイドによる特別授業、朝の挨拶運動や花壇の花植え、広い校内の除草作業も保護者や地域の皆様の御厚意により行われ、地域と連携した教育活動が根付いている。

令和２年度から市原市教育委員会「未来へつなぐ教育小中一貫グローバル化推進校」に、令和４年度から文部科学省「教育課程特例校」に指定された。教育課程を再編して、GC科（グローバル・コミュニケーション科）を設置し、英語を中心としたコミュニケーション能力を高める授業を各学年で週１時間行っている。また、総合的な学習の時間では、グローバルな視点から探究課題を設定し、GC科と連動させながら学習を展開している。常駐する３名のALTの活用により、日常的に英語を中心とした他文化と関わることで、他者とのコミュニケーションを図る資質・能力が育まれている。毎月設けているEnglish Weekでは、挨拶が英語で交わされ、５月に実施した関西方面への修学旅行では、９年生が外国からの旅行者に物怖じせず英語でインタビューする姿が見られコミュニケーション力が向上していることを感じる。

加茂地域の自然と人とのふれあいによって育まれた素直で誠実な子供たちに、予測不能な未来の社会をたくましく生き抜く力を育んでいきたい。そして、誰もが明るく笑顔で生きることができる社会の実現に向けて、自分も周りの人も大切にできる人づくりを、学校・家庭・地域が一つになって進めていきたい。すべては子供たちの未来のためにオール加茂で！